

小児急性中耳炎に対する治療方針についての検討

菅原一真 橋本誠 原浩貴 下郡博明 山下裕司
山口大学大学院 医学系研究科 耳鼻咽喉科学分野

近年、薬剤耐性菌の増加に伴い、小児急性中耳炎は難治化、遷延化する例をしばしば経験する。小児急性中耳炎診療ガイドラインにより一定の治療方針が示され、耐性菌の増加傾向が抑制されることが期待される。しかしながら、その治療効果については、引き続き検討してゆく必要がある。我々は過去4年間に於いてガイドラインに基づいた抗菌薬の処方を行い、臨床データを蓄積してきた。その結果、治療後もインフルエンザ菌が残存することや、1週間の抗菌薬投与で治癒に至る症例は少ないことを報告してきた。そこで、今回は、起炎菌による抗菌薬の選択、鼓膜切開の有用性について検討し、若干の知見を得たので報告する。